

緩歩

かんぽ
— 第3号 —

【題字】
洞慶院 丹羽鐵山 老師

生死事大 無常迅速 各宜醒覺 謹莫放逸

曹洞宗

静岡県第一宗務所 青年会

会長 高橋俊行



四月八日の花祭りを迎え、春爛漫の好時節を迎えました。

平素は青年会に対しまして、宗務所長老をはじめ、管内各御寺院様、檀信徒の皆様、会員諸兄には深い御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

会長を拜命してから一年が経過し、冒頭の言葉の重みとは裏腹に、無為

に過ごして来たのではないかと、この一年間を振り返っております。

私事ですが、昨年の夏休みに一泊二日の坐禅の集いを開催し、ロールレタリング(※)的な感想文を子ども達に書いて頂きました。参加者のある少年がお母さんの気持ちになって自分へ書いた一文を紹介します。

「A君の野球しているところが好きだよ。いつもA君をおこるけどお母さんはおこらないでやさしいお母さんになりたいんだよ。A君は弱虫だから、肝試しのときに心配したけど、あまりこわくなかったから良かったね。A君がいなくてさみしかったよ。夜もA君がいなくて寝るのがさみしいよ。早く帰ってきてね」

私自身も亡き父から自分へと書いてみると、「住職となつて頑張っているみたいだけど、最近、酒の飲み過ぎじゃないか。朝のお勤めも聴こ

えないぞ。今日の法事はなんだ、予定がつかまっていてからと行って、気持ちを入れて勤めていなかったらう。人への話も、口先だけで、中身がない。笠にきて仏教をやるんじゃない。普段の生活から見直していきなさい」と、厳しいお言葉になります。

現宗務所の骨太方針の一つに、「同事行の実践」があります。青年会の活動は発足当初から同事行の実践に他なく、益々、青年僧の活躍の場が拡がります。会としても「継続」から「半歩前進」できるように、会員諸兄の同事行を念頭にした自由な発想を形にすると共に、改めるところは改めながら、活動を展開して参りたいと存じます。

青年会は、会員一人ひとりが自坊において自信をもってエネルギーを活動していく為の、情報交換・提



供の場でもあり、またその個々のエネルギーがまとまった時に、個では計れない大きな役割を展開できる夢もあると思います。失敗を恐れず、お互いに叱咤激励しながら、本年度もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

※「ロールレタリング」
自分から他者に、また他者の立場から自分に手紙を書くという、手紙(往復書簡)を媒介として、自己と他者の役割を転換し体験する方法。

第十六回 定例総会 御案内

総会／研修会／懇親会

●日時：五月八日(木) 午後三時
●場所：静岡グランドホテル中島屋

研修会では清水災害ボランティアネットワーク代表・大石学氏の講演を予定しています。

花まつり

四月八日の「花まつり」に、当青年会では、毎年恒例の「花配り」を沼津・静岡・焼津・藤枝の各駅前で行いました。

一般的にあまり馴染みの無い「花まつり」を地域の皆様に知っていただけという務めてまいりましたが、最近では四月の上旬になると「今年も花配りやるの？」という嬉しい言葉を頂けるようになってきました。



歳末助け合い托鉢



十二月上旬に静岡・沼津・焼津・島田各地区の寺院に集合して駅前・商店街などを中心にして「歳末助け合い托鉢」を行いました。地域の皆さま方より多大なる浄財（計二十三万三千五百六十七円）をいただき、社会福祉協議会等を通じて歳末助け合い募金に寄付させていただきました。

平和祈念托鉢

十一月十一日（世界平和記念日）に平和祈念托鉢を行いました。曹洞宗の宗旨である一仏両祖のみ教えにしたがい、争いのない慈悲と寛容に満ちた世界を実現すべく、仏教徒として、いかなる社会においても「反戦」「非戦」を広く社会に呼びかけ、強く希求するものであります。尚、本托鉢による浄財（一万八千二百一十円）は、SVAシャンティ国際ボランティアを通じて戦争の被害に苦しむ被災地の方々に寄付致しました。



スポーツ親睦会



五月二十八日に、プラザアピア静岡にて、十一月二十九日に藤枝グラウンドボウルにてスポーツ親睦会が行われました。OB諸老師方にもご参加いただきました大変盛り上がる大会となりました。優勝者は、五月の大会が杉山大禅師、十一月の大会はOBの竹田教道老師でした。

昨年度の活動報告

救命救急講習

ボランティア委員会主催の「救命救急講習」が、各地区で行われました。

中部地区では十二月十二日、追手町消防署、石田消防署の二ヶ所に分かれて、西部地区では十一月九日に焼津市消防署にて、東部地区は十一月十四日に富士市・保泉寺にて行われました。救急隊員の指導のもと、人工呼吸、心臓マッサージ、AED（自動体外式除細動器）の使い方を含めた四時間の救命救急の講習を受け、修了証書を頂きました。



能登半島沖地震

災害地支援活動 および義援托鉢

平成十九年三月二十五日九時五十分頃、石川県能登半島沖地震（震度六強）が発生しました。

当青年会からは、特に被害が大きく、大本山總持寺祖院のお膝元でもある旧門前地区にて、十名の会員が支援活動をおこないました。

今回は、主に「おやつ炊き出し」（行茶隊）という、温かいお茶とお菓子を召し上がって頂き、気持ちを和らげてもらうとともに、ゆっくり



「行茶隊」活動の様子



被害にあった總持寺祖院

お話を聞かせて頂くことで心のケアと、被災者のニーズ調査を兼ねる活動をおこないました。

この「おやつ炊き出し」活動は、先に現地入りしていたSVA緊急災害救援室のスタッフ、SVA災害サポーター、全曹青ボランティア委員会委員長、現地石川曹青会員らの尽力により既に軌道に乗り始めておりましたので、静岡ならではの茶葉と煎茶用の急須、名産のお菓子をお土産に持参し、これに参加させて頂きました。

また、各地区にて義援金托鉢を行い、集まった浄財計二十三万二千九百九十二円を輪島市に寄付いたしました。

新潟県中越沖地震

ボランティア活動 ならびに義援募金

平成十九年七月十六日十時十三分、新潟県中越沖地震（震度六強）が発生しました。

当青年会では、七月二十五日〜二十七日に現地にてボランティア活動をおこないました。

今回も主に「おやつ炊き出し」活動をおこないました。

また、管内御寺院にも募金箱を設置していただく等、広く御協力を賜りました。集まった浄財計三百四十二万四千二百三十三円は、共同募金会に寄付いたしました。



現地対策本部となった竜雲寺様にて清掃活動をおこないました。

（活動報告は8ページに続きます）

「絡子作成」研修

平成十九年九月十一日、富士市・保寿寺様において（参加者四十余名）、平成二十年三月十四日、富士市・延命寺様において（参加者十五名）、教化研修委員会主催の絡子作成研修がおこなわれました。

参加者の声を掲載いたします。



そろそろ老眼が間近に迫るオジサンOBには厳しい研修であります。一針一針は経行の緩歩の如し。坊さんとなった御縁をかみしめながらも難行しております。完成はいつの日か・・・？

今後のご指導よろしくお願いいたします。

保寿寺 住職

浅野正光

慣れない針と糸と格闘しながら、やっとの思いで端切れと端切れを縫い合わせる。

「汚い」。あまりにも「汚い」。断腸の思いで縫い目をほどき「やり直し」。そんなことを何度となく繰り返すうちに段々と絡子らしき物に近づく。

「うれしい」。明らかにヘタクソではあるが、それはそれで愛着が湧くことだろう。

喜徳庵 住職

梶田瑛浩

朝から晩まで縫ったが全然進まなかった。あと何日やったら出来るのだろう。

法類に四国の瑞応寺に安居していた和尚がいるが、この絡子とお袈裟を縫うのが必修であるというから、ただただ尊敬である。

東泉寺 副住職

寺澤孝道



一針一針縫う事で大変な作業だと感じたが、昔はそれが当然だった。

現在は既成の絡子があるけれども、実際に作成する事によって絡子の有難みが増し、自分の絡子にも愛着が湧いてきた。

初めは難しいパズルのように感じたが、良き助言もあり、周りの人達と楽しく作業ができた。

満蔵寺 住職

古市太郎

初めはしつかりと作り上げる事ができるのか、とても心配でした。しかし一針一針を気持ちこめて縫っていったら、すごく集中している事に気付き、間違えたりもしましたが、なんとか作り上げる事が出来ました。

次はお袈裟を作りたいと思います。

泉竜寺 副住職

長尾大乗

普段当たり前のように身に着けている絡子も、自分で実際に作ってみると様々な過程を経て完成に至るのだということを実感しました。

各部に「カガミ」や「エン」「角帖」「サオ」「マネキ」などといった名称があることも今回の研修を通して初めて知ることが出来ました。

きれいに作ることの難しさを痛感するとともに、愛着が湧くものだと感じ勉強になりました。

西来寺内

熊山昭徳

絡子の製作工程

カガミの製作

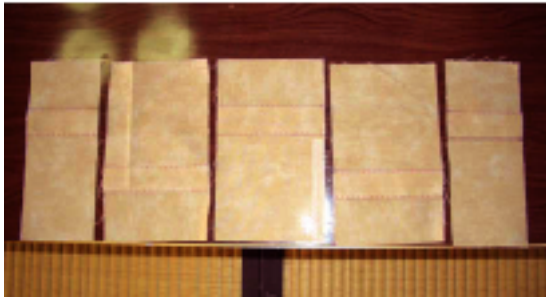
「カガミ」とは、絡子の表、田相とも呼ばれる部分です。

十枚の布を縫い合わせて作ります。



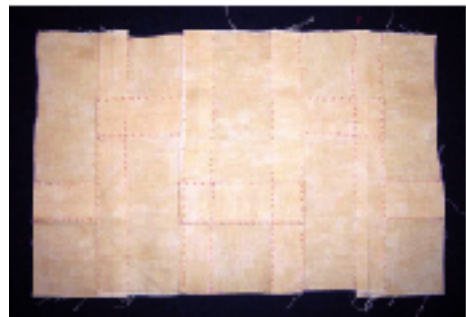
中央の一組

二枚の布を縫い合わせたものを、五組作ります。



写真のように5組作ります。

五組の布を縫い合わせて、「カガミ」は完成です。



5組の布をつなぎ合わせました。

エンの製作

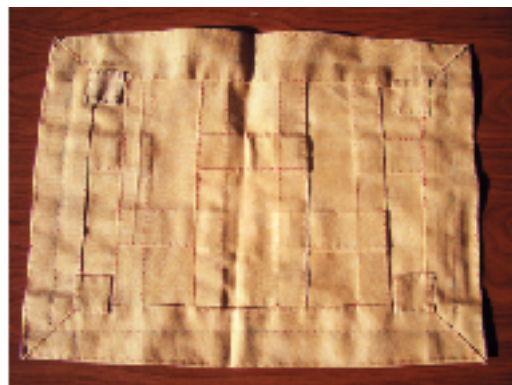
「エン」(縁)とは、絡子の外周部分です。

長い布を輪にして、形を整えます。



「エン」の完成

「カガミ」と「エン」を縫い合わせ、裏布を縫いつけます。



「カガミ」の四隅に「エン」にまたがって「角帖」を縫い付けます。

サオ・マネキの製作



「サオ」とは首に掛ける部分、「マネキ」とは、サオの中心につける布で、絡子を掛けたとき、首の後ろにくる部分です。

仕上げ

「カガミ」「エン」「サオ」「マネキ」を全て接合させて完成です。



「サオ」と「マネキ」を、「松葉折」という縫い方で縫い合わせます。



この続き、詳細については
ホームページ
<http://www.sizusosei.com/>
をご覧ください。

梅花観音霊場めぐり【東部その二】

御殿場から沼津にかけて
参拝しやすいコースを掲載しました。

第六十一番

日向山

大蔵寺

里のなま
日向ときけば
雪霜の
寒さいとわず
参るこの寺



駿東郡小山町
中日向

第五十九番

向嶽山

十輪寺

向嶽の
巡りて来る
観音の
由緒も深き
十輪の寺かな



駿東郡小山町
菅沼

第六十番

法雨山

甘露寺

法の雨
慈悲の光に
包まれて
甘露にみつる
観音の寺



駿東郡小山町
菅沼

第五十八番

巨嶽山

興雲寺

光さす
雲間の月も
さえゆけば
心のくもも
晴るるこの寺



駿東郡小山町
竹之下

第五十七番

蔵春山

宝持院

かんぜおん
頼むところに
添ひたまふ
梅の園生の
大悲の笑ひ



御殿場市
東田中

第一〇四番

霊亀山

興禅寺

ほのぼのと
月は霊亀の
観世音
拝む姿は
永久に尊し



裾野市
深良

第六十四番

般若山

光明寺

茜さす
富士の裾野の
光明寺
大悲おろがみ
永久に清けし



裾野市
公文名

第六十三番

太平山

普明寺

ありがたや
梅花の功德
ひろまりて
観音様の
慈悲のまごころ



裾野市
千福

第六十二番

桃菌山

定輪寺

爛漫の
桜花枝垂るる
宗祇廟
定輪観音
救世のみ姿



裾野市
桃園

第六十五番

大嶽山

三明寺

み姿を
拝む喜び
観世音
憂い深き日
導き給う



沼津市
大岡

第六十六番

兜率山

霊山寺

香貫山
松の響きも
りょうぜんの
風吹きわたす
法の声こえ



沼津市
本郷町

第六十七番

士詠山

大泉寺

みなかみを
たづねてこゝに
井出の里
くみてたむけむ
法のたまみず



沼津市
井出

委員会 の活動

ボランティア委員会



委員長
柴田尚道

ボランティア活動は幅広く多岐に渡っていますが、昨年度は災害に関するボランティアを中心に活動をしてきました。

普通救命の技能を各地区で再度習得し、研修会においては能登半島沖地震で被災し、発生から現在もなおボランティア活動を行っている石川県曹洞宗会長、事務局長を招いて現場の現状を知り、青年会として一人ひとりで何をすべきか考える事ができました。

今後はこの災害ボランティア活動をさらに広げていくとともに、青年僧として積極的に他のボランティア活動にも取り組んで参ります。

教化研修委員会



委員長
青野貴芳

昨年度の研修では、絡子製作に取り組みました。多くの方にご参加いただき有難うございます。しかし、限られた時間の中で絡子を完成させることは難しく、さらに方法論を検討する必要を感じました。特に、絡子製作に限った話ではありませんが、情報の伝達・共有手段として、ホームページをさらに活用していくべきではないかと思えます。

あくまでも私案ですが、今年度の研修テーマとして、「IT技術の活用」「坐禅を活用したメンタルケア」等を考えております。また、さらに有益で興味深いテーマを青年会内外の皆様からご提案いただければ幸いです。本年度もよろしくお願いいたします。

企画委員会



委員長
荒見法孝

平成十九年度は、本来の目的である会員同士の親睦を深める事を第一と考え、自由な発想のもと、一年をかけてじっくり企画案を練ってまいりました。事業として前年度の企画を継続していく事も検討中ではありますが、研修旅行という新たな意見が案としてあげられ、執行部で検討した結果、本年五月に実行する運びとなりました。

静岡第一青年会では発足以来初の試みだそうです。会員皆様の御協力・御参加を強く希望致します。

尚、残りの一年をかけ新たな事業、企画を検討し実践を行って参ります。

広報委員会



委員長
大村則道

広報委員会では、前期より引き継いだパソコン用ホームページと広報誌「緩歩」(年一回発行、本誌)というメディアを通して、当会の活動等を広報しています。

ホームページでは活動予定・報告の他、仏祖のことは、絡子製作、精進料理、心と体のストレッチ、法要解説、管内観光地、頒布物の紹介を行っており、精進料理はもちろんの事、意外なことにストレッチのページへのアクセスが多く、広く世間のニーズにも配慮して一層の充実とテーマの拡充を計ってまいります。アイデアとしては会員寺院で開催されている参禅会等の紹介が挙がっています。

檀信徒を含む寺院関係者を対象とした「緩歩」は会内の情報が主になります。敷居の低い媒体として、当会により親しみを感じていただければ幸いです。



ボランティア研修会

平成二十年二月七日、曹洞宗石川県宗務所青年会の荒井徹成会長、星野正親事務局長をお招きし、静岡市・大正寺様において、ボランティア研修会が開催されました。

平成十九年三月二十五日に発生した石川県能登半島沖地震の被害の様子や、その時おこなった支援活動などについてのお話を伺いました。

その後、当青年会会長とボランティア委員長を交え、青年会から出された質問などをテーマにパネルディスカッションをおこないました。



安居志願者研修

本年度、僧堂に安居を希望している若き宗侶たちが応量器の使い方やお袈裟のつけ方などを学ぶ研修が行われました。

日程・参加者は左記の通りです。

- 第一回 一月九日 慈林寺 参加者 二名
- 第二回 一月三十一日 慈林寺 参加者 一名
- 第三回 二月十三日 慈林寺 参加者 四名
- 第四回 二月二十五日 松雲寺 参加者 四名



永原裕晃老師本葬儀

当青年会第四期会長永原裕晃老師の本葬儀が平成二十年二月二十三日第二教区東泉寺において厳修されました。品位の増崇を祈念致します。

卒会者紹介

●杉山隆光 師

長い間お疲れ様でした。これからもご指導よろしくお願い致します。

入会者紹介

●四教区 山王寺

溝口泰守 師

●六教区 興禅寺

松本好寛 師

●七教区 福寿院

横井健靖 師

●十五教区 桃原寺

増田美源 師

よろしくお願い致します。これからの活躍を期待します。

■編・集・後・記■

創刊号・第二号と新聞作成ソフト担当をしていましたが、今号から古川師に引き継ぎ、ずいぶん楽をさせていただきました。(平尾直毅)

今まで何気なく読んでいた物の発行することの難しさや大変さを知りたい機会になっております。今後に活かしたいですね。(翠 智道)

今年で広報委員会六年目です。青年会行事にカメラを持って出かけることが習慣となっていました。今号では余技で撮った写真を掲示していただきました。今後は「緩歩」や青年会HPを個展の場所にしていきます。(寺澤孝道)

この経験を自坊の寺報等に活かしていきたいと思えます。(高橋英明) 最初のうちはソフトの使い方がよく分からず苦労しましたが、無事に完成する事ができ嬉しく思います。(古川義典)

未熟な私が編集委員に所属させて頂き、改めて文章を書くことの大変さがわかりました。諸先輩方の御指導のもとで広報の仕事に身についていると思っております。(熊山昭徳)

〔発行〕 静岡県第一宗務所青年会

〔事務局〕 富士宮市内野325 法蔵院内

〔発行責任者〕 高橋俊行

〔編集〕 静岡県第一宗務所青年会 広報委員会